

卓 話

平成 29 年 5 月 30 日

『 第 4 回クラブ訪問 挨拶 』

国際ロータリー第2630地区 岐阜Aグループ
ガバナー補佐 田邊雅範様

岐阜Aグループのガバナー補佐を務めさせていただいている、岐阜中ロータリークラブの田邊雅範です。本年最後のクラブ訪問となりました。

今日は2016年の規定審議会で、クラブの定款に「クラブの目的」が新設されたことについてお話したいと思います。

皆様のクラブでは既に標準定款を採用され、第3条に「クラブの目的」という条項が入れられたはずですが、これは、「本クラブの目的は、「ロータリーの目的」の達成を目指し、五大奉仕部門に基づいて成果あふれる奉仕プロジェクトを実施し、会員増強を通じてロータリーの発展に寄与し、ロータリー財団を支援し、クラブレベルを超えたリーダーを育成することである。」というものです。



クラブが効果的なものとなるためには、

1. 会員の基盤を維持強化する。
2. 成果のある奉仕プロジェクトを実施する。
3. ロータリー財団を支援する。
4. クラブ指導者を育成する。

という4つの要素を活動計画の指標にしてほしいというものです。

これに関し、刃田ガバナーは「最も出席するもの最も報いられる」を地区方針として、ガバナー一月信で書いておられますが、例会を大事にさせていただけるよう訴えてこられました。クラブでの「会長の時間」を大切に、クラブや会員の活動・ロータリー情報を会員によく知っていただき、クラブ活動への参加意識・意欲が高まるようにしていただきたいと、訴えてこられました。

また、米山梅吉翁は「ロータリーは人生の道場」「我以外皆我師」と言っておられ、例会こそが重要とされています。

今年度の地区大会では「日本の伝統として継承するロータリー文化を堅持する決議」が採択され、伝統的日本のロータリーを主体として、クラブが主体性を持ってロータリーの奉仕理念の研鑽と奉仕活動の実践をすすめていただきたいと考えておられます。

ロータリーは、1905年に誕生し、時代とともにRIの方針も変わってきました。最初は「職業倫理の高揚」が理念であったものが、次には「ボランティアのロータリー」になり、現在は「拡大」が目的化しているようにさえ思えます。会員数の増加がロータリー財団の活動を活発化させ、それがロータリーの発展をもたらすと考えているようです。

世界各地のロータリーの会員に、活動する理由を尋ねたところ、次の3項目に集約されたということです。

1. リーダーのネットワーク：ロータリーは、世界の様々な国や職業のリーダーのネットワークです。
2. アイデアを広げる：ロータリーは、多様な会員のアイデアや職業の専門知識を生かして、地域社会のニーズや問題に取り組みます。
3. 行動する：ロータリーは、世界中の地域社会を長期的に改善するために行動します。

ロータリーは「人づくり」の場であり、それは例会を通じてなされる、というのが本質ではないでしょうか。

次年度へ向けての国際協議会が1月にサンディエゴで開催されたということです。当地区のガバナーエレクトの田山雅敏様も参加されました。以下、その報告から抜粋させていただきます。

次年度のRI会長は、イアン H.S. ライズリー氏とのことで、テーマは「ロータリー：変化をもたらす」(Make a Difference) ということです。奉仕を行うことにより人々の人生に変化をもたらすことができる、というものです。ロータリーの充実感は、毎年毎年「変化をもたらす」ロータリアンから湧き出るもので、地域に変化をもたらす・クラブに変化をもたらす・自分の人生にも変化をもたらす等も「変化をもたらす」の一つであるとのことだそうです。

田山ガバナーエレクトの地区の方針は、「未来を創造しよう」ということです。田山エレクトの国際協議会での感想は、ロータリーは次の10年に向けて新しい歩みを始めた、というものです。前へ進んでいく、新しい方向に取り組むクラブを積極的に支援していくという方向性のようです。

6月で私のガバナー補佐としての任期は終わり、7月からは岐阜長良川ロータリークラブの箕浦洋和様が就任されます。この一年間、浅学非才の私でしたが、皆様にご指導いただき、何とか任務を終えそうな時期に差し掛かることができました。至らぬ点は多々ありましたが、皆様のご助力に感謝申し上げて、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。